

## 2.9. 情報システム構築学講座

### 2.9.1. 講座の概要

#### (a) 講座の簡単な説明, キーワード

(ここに講座の簡単な説明を記述してください)

本講座のモットーは「ソフトウェアのエジソンになろう!」, 講座の運営方針は、「理論指向型・現場主義」である。人々の暮らしや仕事の現場に入り込み, 利用者にとって有益なソフトウェアを発明・開発し, 実用化することをねらいとしている。また, その経験の中から新しい法則や理論体系を見出し, 他分野への応用, 汎用的化に向けた理論の構築も行う。具体的には, 情報システムのモデル化, 各種地域情報システム・アプリケーションサービスの構築, ユーザ主導型のソフトウェア開発手法等に関する研究・教育を進めている。研究においては, 岩手県内の企業や, 市町村自治体, 医療・保健・福祉機関と連携したプロジェクトによる実用的なシステム開発を行っている。教育においては, コース科目「情報システム演習 A, B, C」の中で, 学生が岩手県というフィールドに飛び込み, 密着・調査し, 現場の中から研究課題を発掘するといった体験的な学習を実施している。この演習により, 机上ではわからなかった新しい発見もあり, 学生も生き生きと勉学意欲を燃やしている。これまでの研究成果としては, 川井村, 紫波町, 遠野市における「ライフサポートネットワーク」, 独居高齢者見守りシステム, 健康増進支援システム, 「食育ネット」などを開発し, 導入実験を行った。これらの成果および, その基盤となるユーザ指向型ソフトウェア開発理論の成果に関して, 国際会議等で定期的に発表している。また, 革新的ソフトウェア開発手法の確立を目指し, ソフトウェア戦略研究所 (ARISES: Advanced Research Institute on Software Strategies), SoMeT (Software Methodologies, Tools and Techniques), EJC (European Japan Conference on Information Modeling and Knowledge Bases) 等国際会議や, 国際シンポジウムへの参画・活動も積極的に行っている。このように, 現場から理論, 地域から世界まで, 当講座の活動範囲は高度化・拡大化している。

キーワード: ユーザ指向ソフトウェア開発手法, 保健医療福祉情報システム, 農業情報システム

#### (b) 年度目標

新しい情報システムの発明 (特許) 1 件以上, 論文 1 件 (/教員) 以上, 国際会議発表 1 件 (/教員) 以上, 情報システムの実用化 1 件以上, 学生による全国大会・研究会等での発表を 1 件 (/4 年生以上の学生) 以上とする。

#### (c) 講座構成教員名

佐々木淳, 山田敬三

#### (d) 研究テーマ

- ユーザ指向型システム開発手法の研究
- 健康増進支援情報システム, 高齢者見守りシステム
- 食育・農業・観光支援情報システム

#### (e) 在籍学生数

博士(前期): 5 名, 博士(後期): 1 名, 卒研生: 9 名, 研究生: 1 名